

○議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

2月20日に引き続き、通告順にこれを許します。

田中 中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。〔7番 田中 中立一君登壇〕

○7番（田中 中立一君）

おはようございます。市民ネット21、田中 中立一です。

発言通告書に基づき、一般質問を行います。

1、旧東北電力ビルと旧宮田ビル解体工事について。

旧東北電力ビルと旧宮田ビル解体工事について以下伺う。

(1) 入札について。

本案件は、令和6年7月以来、同7年7月まで連続6回不調に終わり、令和7年11月の7回目の入札において随意契約でようやく締結に至った。

これまでの経緯及び理由等を以下改めて伺う。

- ① 連続6回の不調の原因をどう考えているか。
- ② 予算の変遷について。
- ③ 性能発注方式に変えた理由について。
- ④ 2棟同時解体に変えた理由について。

(2) 随意契約について。

- ① 随意契約に変えた理由について伺う。
- ② 予定価格の設定と落札率について伺う。

(3) 基礎工事を残すことについて。

- ① なぜ残すことにしたか伺う。
- ② 工費、工期、環境についての考えを伺う。

2、文化振興について。

前回、12月の一般質問では、公共施設の使用料見直しについて伺ったが、4月からの施行に当たり、特に文化団体において活動の制限や加盟団体離れなどの懸念の声が聞かれるが、現状をどのように認識し、対応を図るか、考えを伺う。

3、農業・水産業について。

(1) 令和8年度農業について以下伺う。

- ① 令和8年度の主食用・非主食用の稲作計画状況について。
- ② 高温耐性品種米の取組状況について。
- ③ 令和8年度以降の圃場整備計画について。

(2) 養殖事業について以下伺う。

- ① 市内養殖事業の取組及び産学官連携について。

② 錦鯉事業者の現状の課題と取組について。

以上、よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

おはようございます。

田中議員のご質問にお答えさせていただきます。

1番目の1点目の1つ目、不調の原因につきましては、設計書の記載内容の捉え方の違いによる、応札額と予定価格との乖離によるものと捉えております。

2つ目の予算の変遷につきましては、6年度6月補正で9,800万円を計上、7年度6月補正で1億5,200万円の債務負担行為の追加を議決いただき、総額2億5,000万円の予算となっております。

3つ目の性能発注方式への変更理由につきましては、旧宮田ビルを含めた2棟同時解体のための十分な準備期間を確保できないことと、安全に解体を行うに当たり、その方法について、業者からの提案も含めて柔軟に対応することで応札意欲の向上が図られるものと判断し、アスベストの状況など、最低限の情報を提示した上で、性能発注方式としたものであります。

4つ目の2棟同時解体の理由につきましては、住民からの早期解体要望への対応や近年の急激な物価上昇を踏まえ、旧宮田ビルの解体時期を前倒しし、同時解体することとしたものであります。

また、これにより別々の時期に解体するよりも、振動や騒音の発生期間を短縮できるなど、住民負担の軽減にもつながると考えたものであります。

2点目の1つ目の随意契約につきましては、1回から6回まで制限付き一般競争入札で不調が続いたことから、設計施工能力があると見込まれる市内外の建設業者を選定し、見積り合わせを行ったものであります。

2つ目の予定価格につきましては、積算に当たって参考見積書を徴取し、市場価格を反映させた設定をしております。

また、落札率につきましては、今年度、財政課で行った入札の平均落札率が98.5%であることから、おおむね平均値であると捉えております。

3点目の1つ目の基礎部分を残すこととした理由につきましては、遅れているスケジュールを回復することに加え、周辺住宅への影響を抑えることにつながると判断したものであります。

2つ目の工事費等につきましては、直接工事費で約500万円の縮減、工期は2か月から4か月程度の短縮を見込んでおります。

また、当該地は広場整備を予定しており、大規模な構造物の設置計画がないことから、基礎を残すことによる影響は、限定的であると捉えております。

2番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

3番目の1点目の1つ目の8年の稲作計画につきましては、主食用米は、県から示された生産目安を目標とし、また、非主食用米は、生産者が予定する面積を生産目安として定めたところであり

ます。

2つ目の高温耐性品種の取組につきましては、作付面積は、年々拡大しており、8年度においても、拡大する見込みであります。

3つ目の圃場整備計画につきましては、7地区で継続実施、2地区で今後の計画を行っております。

2点目の1つ目の養殖事業の取組につきましては、民間事業者1者が行っております。

産学官連携につきましては、水産資源活用による地域振興を目的に、平成30年度に3者協定を締結しております。

2つ目の錦鯉事業者の課題につきましては、高齢化と後継者不足と捉えており、取組につきましては、生産者の皆様と意見交換してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

おはようございます。

田中議員のご質問にお答えいたします。

2番目の使用料見直しに伴う影響につきましては、文化団体においては、構成員の減少や高齢化の影響が大きいと認識しております。

市としましては、広く市民が、元気に文化活動に取り組めるよう、引き続き、文化の振興を図ってまいります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

まず、旧東北電力ビルと旧宮田ビルの解体工事ですけれども、まず伺いたいののが、締結12月18日でしたか行って、それから2か月たって、今のところ外見上、変化が見られないんですけれども、工事の着手はどのような予定であるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

事業者のほうとは契約のほうを締結しておりまして、1月末にはですね、市民説明会、住民説明会等も開催をさせていただきました。今のところの予定で、3月末ぐらいまでに家屋調査等を実施しまして、本格的な工事につきましては、4月以降となる見込みでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

家屋調査するんですね。

まず、この質問の前段として、1月の19日に入札監視委員会がありました。私、このときの資料を見て、非常に驚きました。これではなかなか不調の解決には程遠いんじゃないかなと。そういう印象を持ったわけで、どういった点かといいますと、まず、1回目から5回目ずっと同じ業者、3回目を除いてですけどもね、3回目は2者でしたけど——が、1者だけしか、金額が大きい割には1者だけしか応募していないということ。それから、その応募している業者は、5回とも全部同じ1億1,800万円ということ、全然変えないでありますね。3回目に応札した、もう一者も、その1億1,800万円よりもさらに大きな金額だったということ。それに対して予定価格というのは、解体工事の予算額よりもかなり低い、安い設定になっていたということ。これらの状況が、ずっと不調が続いているにもかかわらず、予定価格、上がったのが、この5回の中で160万円、一切歩み寄りはないと。歩み寄りする必要がないと思ったのかどうか分かりませんが。そのように、予定価格を見直すとか設計を変えるとか何の工夫も、これから見た限りでは見当たらないということでもあります。

やはり普通は、5回も重ねれば、少しは価格差が縮まるのが普通じゃないかなと思うわけですが、これではほとんど変わらないということで、これでは何回入札をしても不調に終わるといのは、素人の私が見ても無理はないなと。

昨年4月に選挙があって、その後、夏に6回目、7回目が行われたわけですが、この6回目、7回目の解体工事は、今度2棟同時解体ということで、その2棟目のビルは、この旧東北電力ビルよりも遥かに小さい半分以下、半分ぐらいなのに予定価格が2.5倍に上がっている。この辺の説明がちょっと私にはよく理解できていない。この工事費の割合は一体どうなっているんだろうかと。

7回目、今度、随意契約なんですけれども、高額な随意契約ですわね。見積り合わせをしたということで、実質的には6回目、7回目になって、実際の落札のほうに近づいてきたわけなんですけれども。このように大きく変わったのは、やはり市長が変わったことによるのかなと思うわけで、私は思うわけであります。

2月4日には、総務文教常任委員会が行われました。この入札監視委員会の資料を含めて、このような資料も出されたわけですが、まだまだ私、自分の中では納得のできるような状況にはなっていないもんですから、今回このように上げさせてもらったということでもあります。

改めて市長に伺いますけれども、市長は、昨年当選されて、昨年の夏、7月、8月に改めてこの

同時解体の方針を出されたわけなんですけれども、私が先ほど感じた、このような状況、1回目から5回目の不調になった状況をこういった数字等、いろいろ報告を受けたと思うんですけれども、私は非常にびっくりしたわけなんです、市長はどのような感想を持たれたものかなど。それをお聞きしたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

基本的に今回のいろんな1回目から5回目、6、7回目に至る経緯につきましての考察等につきましては、基本的に私自身がそこに携わるということは一切ない状態で、どうしたらあの解体ができるのかという部分を事務方等も含めて、できる理由をどうやってつくっていくのかという部分で、苦心したところでございます。そういう中で出てきたものが、6回目、7回目というふうに至ったということでございます。そういう部分を勘案しながら、私自身が指示したとかということは一切ございませんので、一応、応札に関しては、いろんな部分の慎重を期するという部分がございますので、そういう点で今回、7回目に至ったという事情をご理解していただければと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

1回目から5回目携わっておられなかったということは分かって、今伺ってるわけなんですけれども、じゃ、井川副市長は携わってこられたんじゃないかなと思うんですけれども、井川副市長は、この5回の間はどのように捉え、この間、何らかの改善策といたしましうか、指示を出されたものかどうか。それともこれは、副市長のあれじゃなくて前市長の範囲なので私はよく理解していなかったということになるんでしょうか。その辺ちょっと詳しく教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

おはようございます

お答えいたします。

工事の設計につきましては、所管課のほうで、事業者のほうから見積りを取って、それを踏まえて予定価格を定めて入札を行っているものでございます。

それで、5回の経過は、途中途中で見直しがあるという話は私も伺っておりましたが、基本的には私どもの設計で応札いただけるものという形で事業を進めてきたものでございます。ただ結果として、その設計の考え方と事業者応札の考え方が乖離していて、5回の不調につながったというこ

とでございます。

今ほど市長も答弁申し上げましたが、私自身も事業者との接触等は一切ございませんので、入札については事務的に淡々と進めさせていただいたものであることをご理解いただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今ちょっと聞き間違いなのかどうか副市長の話の中で、予定価格を決めるのに業者の見積りを取ったというふうに聞こえたように思ったんですけども、1回目から5回目に当たって、予定価格を決めるに当たって参考見積りというのは、しっかり取られたのかなというのを、ちょっとその辺確認させていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

解体の工事につきましては、特に決まった単価等があるわけではございませんので、参考見積りを徴して、これは市長答弁でもさせていただきました。参考見積りを徴した中で、予定価格の設定をさせていただいているというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

この後の質問の中に入ってくるんであれなんですけども、やっぱり参考見積り取ってれば、このような開きというのはないんじゃないのかな。あるいは、しっかり1回目より2回目、3回目というのは、近づいていくんじゃないのかなというのが私の考えなんですけども、またその後は、この後になりますので、ちょっと再質問にするに当たって少し資料のほうの整理をさせていただきます。

私は今回、ここだけの資料のほうを見させてもらっているんですけども、入札監視委員会、あるいは総務文教常任委員会等々、それから基本設計、旧東北電力ビルの解体の設計業務委託のものです。

まず、資料の確認をさせていただきますけれども、旧東北電力ビルの解体工事の設計業務委託というのをやったというのは、私の手元にあるんで分かるんですけども、旧宮田ビルの解体工事の設計業務委託というのは出しているのでしょうか、いないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

塚田財政課長。〔財政課長 塚田修身君登壇〕

○財政課長（塚田修身君）

おはようございます。

旧宮田ビルの設計につきましては、委託業務の発注はしておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それから、さっき最初のほうのあれで、家屋調査のことを聞こうと思ったわけなんですけれども、家屋調査、この1回目からの中には家屋調査30件とあるんだけれども、6回目からはないもんですから、家屋調査30件はどうなったんだろうと、その資料の確認したかったんですけれども。家屋調査をやるということで、先ほど答弁もらいましたけれども、この辺の、今までのところでは30件というふうになっていましたけれども、同時解体することによって件数の変動とか、あるいは設計やら振動とかって、いろんな面において、業者側とは擦り合わせはできるものなのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

1回目から家屋調査の必要性というのは感じておまして、一定の範囲を決めた中で家屋調査を実施するというのでしておりました。6回目、同時解体になったときも家屋調査をするということは明記をしておまして、やる予定にしております。6回目、7回目についても同じ条件。宮田ビルが入ったことによって、その範囲ですね、工事エリアの敷地から30メートルという範囲設定をさせていただいて、件数をはじき出しているといった状況でございます。その件数については、お声がけをさせていただいて、家屋調査の実施の有無については確認をさせていただくということで、工事業者とは進めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

資料の確認の中で、その辺の家屋調査は一軒一軒のそれ、また長期にもわたるものでしょうし、今度は性能一括、何だったっけ、この全部、設計施工の一括発注だから予算のあれが分からなくなってくるわけです。分からないというか、変更があっても認められないんじゃないかなと思うので、その辺のことがしっかりできているのかなと思って今聞かせてもらいましたけど。何メートルかという範囲を定めてやっているということなんです。性能発注方式だ。

それから、今の話聞いてると、この総務文教常任委員会や、あるいは入札監視委員会の資料を見ると契約方法について、6回目にはしっかり性能発注方式による制限付き一般競争入札とあるんですけれども、7回目のほうには性能発注方式という言葉が見当たらなくなっているんですけれども、

これも同時に性能発注方式でよろしかったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

塚田財政課長。〔財政課長 塚田修身君登壇〕

○財政課長（塚田修身君）

7回目につきましても、性能発注方式、設計施工一括方式で見積り合わせ、依頼のほうをさせていただきます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

分かりました。じゃ、6回目、7回目、全部性能発注方式だということですね。そうだろうと思っているんですけども、先ほどからのやり取りを伺ってて。

もし差し支えなければなんですけれども、この旧東北電力ビルと旧宮田ビルを建設した、建物を建てた業者さん、施工された業者さんというのは、ひょっとして、このJVの業者さんだったのかどうか、差し支えなければ教えていただけたらと思います。

〔「議長、休憩をお願いします」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

〈午前10時26分 休憩〉

〈午前10時27分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

塚田財政課長。〔財政課長 塚田修身君登壇〕

○財政課長（塚田修身君）

両物件につきましても、買収であったり、また寄附採納であったりということで、民間の方から取得している物件でございます。民間の方から譲り受ける際に、当初どちらの業者様が建設したかという情報については聞いておりませんので、お答えはできません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

この1回目から5回目までの応札の状況を見てると、予定価格を作成・積算するに当たっても、それから入札に当たって提供する、積算する根拠等の資料にしても、この基本設計といひましようか、業務委託を出した、そこの設計を基づいて、同じ設計を基づいて算出しているはずですよ。それなのにこれだけの、1億1,800万円と八千何百万円と、3,000万円の違いが出るというのは、これだけしかも変えないというのは、かなりこのことを分かっておられるから、ひょっとして同じなのかなと思って、差し支えなければ聞かせてもらおうと思って伺った次第です。でないとなかなかこのようなことは起こらないんじゃないかなと思うわけなんですけれども、ただ、1回目から5回目の開きのことについては、市長答弁では、あるいはこれまで自分の12月の議会、あるいは総務文教常任委員会の委員会でも相違点があるということで、この違いが価格の違いだというふうに答弁をされているんですよ。この捉え方の違いというのは、一体何なのかなと思うわけなんですけれども、今はこの捉え方の違いの中身というものを分かって、把握されたんでしょうか。何が違っていたか分かったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

塚田財政課長。〔財政課長 塚田修身君登壇〕

○財政課長（塚田修身君）

現状につきましては、その相違点というところには確認はできておりません。

ただ、一般的に入札をするに当たって、不調というような現象はもちろん起きます。そうなったときに、何が違うかといひますと、私どもの設計は、いろんな設計単価を用いて積み上げた金額を積算するわけですが、その積み上げの段階で業者様、入札に参加される業者様とその単価が違うというようなことになりますので、その捉え方が、今回のケースでいうと私どものほうが低くて、入札、応札された業者様のほうが、そこはその金額だとなかなか工事は受注はできないと、そういうような判断の下で積算金額に差が開いたと、そういうふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それにしても、5回もこのようなことになるというのは異常な関係じゃないかなと思うわけですし、ちゃんと6回目になってからは、金額は上がって、応札額と、それでも大分近づいてきたのはどうしてなのかなと。かたくなにずっとこれを守って、守ってという言い方がいいのかどうか、固執されてきたわけなんですけれども、その辺を変えられた理由というのは、何かお分かりでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

塚田財政課長。〔財政課長 塚田修身君登壇〕

○財政課長（塚田修身君）

1回目から5回目までは、議員おっしゃるとおり、まず1棟解体、6回目、7回目については

2棟解体ということで、まず、解体に当たる数量が大きく変わりました。その数量が変わるに当たりまして、私ども、先ほど都市政策課長も答弁にあったとおり、解体工事につきましては、設計するに当たりまして業者様から提出していただく参考見積書によるところが大きくあります。6回目に至るに当たって、もちろん工事の内容がそれだけ変わりましたものですから、参考見積書のほうは改めて市内・市外業者様のほうに依頼して徴収しているところでございます。

そういったところで、金額のほう、見方が変わった、工事の内容も変わったということもございまして、1回目から5回目の1棟の分と、6、7の2棟の分と見ますと、これだけ金額についてはちょっと差が出てるのかなと、そういうふうな印象を持っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

私のような素人は、こういう与えられた数字しかあれなんですけれども、だったら、なぜ1回目から5回目の間の、例えば3回目のときに応札業者が2者になったとき、それでもやはり全然応札額と開きがあるのに、そのときに参考見積りの見直しだとか、予定価格の見直しだとかできなかったのかなと、やはり素人としてはそのように思うわけですよ。やはりそうしないと時間がたっていくし、インフレ率も高いわけですし、最終的には6回目、7回目に今言われたようなことをされた。このことについては、恐らく何回聞いても同じように答えられるんだろうと思いますし、なんですけれども、ちょっと腑に落ちないところであります。

でも予算の編成と、予算の話になると旧木浦地区の公民館の解体工事、同じ解体工事だよ、思い出すわけなんですけれども、このとき予算が大きく変わったのは、アスベストの含有は、設計段階と施工を始めたら違ったということで大きな増額になったわけなんですけれども、今回、6回目、7回目になると性能発注だから変わらないわけなんですけれども。この辺のアスベスト、あるいはPCBに関する捉え方というのを変わると、すごく大きな違いが出るというのをこの間、学ばせてもらったんですけれども、どうもその辺も一つの大きな原因かなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

アスベストの関係は、木浦地区公民館の解体の際の大きな教訓として私どもも思っておりまして、今回の解体に当たりまして、性能発注方式として出してはいますけれども、大きな変化を生むアスベストの処理の部分、使用の多い部分については先に調査をさせていただいて、その結果を付した形で入札をさせていただいているといったところでございます。例えば外壁の塗装の関係、こういったところについては面積も多いですし、その処理には量も増えてまいりますので、それに対する金額というのは大きな影響を及ぼすということで、そういったところを最初に確認をした上で入札に臨んでいるというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それが全部、前段の事前の予定価格を作るに当たって把握されたかどうかなというところが疑問の残るところであります。

というのは、6回目の予定価格の設計費、設計費じゃないや、予定価格の2億1,635万円という数字ですね、急に跳ね上がったわけなんですけれども。まず、6回目の予定価格には、この旧宮田ビルの設計費というのは含まれているものなんでしょうか。これをやるに当たっては、設計施工の性能発注一括方式なんですけれども、これが含まれているのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

塚田財政課長。〔財政課長 塚田修身君登壇〕

○財政課長（塚田修身君）

お答えいたします。

6回目につきましては、今ほど議員おっしゃるとおり、設計施工一括発注でございますので、設計の部分も契約の中には含んでおります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

ということは、今現在かどうかはともかくとして、この時点においては、旧宮田ビルの設計は、解体設計はないということになるわけなんですけれども、じゃ、2億1,635万円はどのように積算をされたのかなという疑問が今度残るんですが、どのように積算をされたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えをいたします。

先ほど財政課長が言ったとおり、性能発注方式でございますので、設計施工一括ということで、調査費ですとかそういったところも含まれております。私どもは、どういう形で予定価格を設定したかというのは、市長答弁があったとおりですね、参考見積りを徴収をして、内容の確認をさせていただいた上で予定価格の設定をさせていただいてるということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

旧東北電力ビルのほうは、設計図があるから、それにのっって積算をし、旧宮田ビルのほうは、設計図がないけども、参考見積りを取って積算をしたということで理解してよろしいんですね。ちょっとこの話になってくると、工事費の割合というのは一体じゃ、どうなってくるのかなと思うわけなんですけれども。

その前に予算の話を見せてもらいますと、1回目から5回目の入札で、予定価格というのは予算9,800万円ですか、それに対して予算が9,800万円に対して八千幾らだったっけ、数百万円、四百幾らでしたよね。千何百万も差があるわけなんですけれども、まず、この予算をどのように決めて、なぜ予定価格は千何百万も低いのかなと。その結果、1億1,800万円との差がすごく大きいわけなんですけれども、積算をもう少し見直す中において、この予算に近づけば応札額とも近づいてくるわけで、そうするとまた話合いも出てくるんじゃないのかなと、素人考えなんですけど、思うんですね。何で予算額と、予算額は我々議会のほうでも認めた金額なんですけれども、予定価格はこんなに低くなってしまおうんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議員おっしゃっておられる予定価格というのは、税抜きの価格ではないかと思われまして。税込の価格にしますと1回目から5回目まで9,400万円から9,600万円台というような形で、予算としては9,800万円でございますので、それほど離れている金額ではないというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

確かに私が言ってるのは税抜きの金額でやりました。同じようなことが6回目から7回目においてもあるんですけども、こちらのほうは、ぐっと上がってくるわけなんですけど、この2棟同時解体ということで、やはり気になるのは、2棟目のほうが面積が非常に小さいのにこのような価格になってくるのはどうしてかなというところであります。これ、2棟目のほうは、さっき設計料金が、恐らくこの中にも含まれてくるのかなと思うんですけども、そういったことを含めてもかなり差があり過ぎるということで、よく話が出てくるわけなんですけれども、この工事費の割合というのをどのように捉えたらいいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

塚田財政課長。〔財政課長 塚田修身君登壇〕

○財政課長（塚田修身君）

1回目から5回目の旧東北電力ビルの1棟のところと、あと、6回目から7回目、旧東北電力ビ

ル含めた2棟になったときの金額の見方というところですが、まず、1から5回目につきましては設計がありましたので、設計に基づく中で予定価格を設定して、入札を実施してきました。6から7回目につきましては、確かに1回目から5回目にありました設計の情報、データはもちろんございます。その情報に基づきまして、6回目はそれはもちろん生かすんですけれども、ただ、6、7、設計施工一括発注の中には2棟、旧東北電力ビルも含まれておりますので、改めて応札、要するに入札に参加される業者様におかれましては、旧東北電力ビルも設計のほうは、私どもの情報だけではなくて自らも積算されている。その結果、金額については、恐らく旧東北電力ビルについても時点修正みたいなどころもあるかと思いますが、そこについては1回目から5回目と比べても差が出てくるものかなというふうには感じております。

あと6、7につきまして、じゃ、2棟の経費、設計額についてどれぐらいの割合かというところにつきましては、直接工事費というところについては、それぞれ旧東北電力ビル、旧宮田ビルというところで積算はされていることかと思いますが、ただ、工事一体で見ますと、共通仮設費、また諸経費等は一つの経費として見られておりますので、その辺の中の案分というのが私どものほうでちょっと見ることができないものですから、なかなか2棟をそれぞれ、旧宮田ビルが幾ら、旧東北電力ビルが幾らというところにつきましては、私のほうではちょっと金額のほうは定かに承知はしておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中一君）

財政課長としてはそういう話になるんでしょうね。このことについて、これから工事が始まる今、そういう最中だからちょっと私も聞きにくいところもいろいろあるんですけれども。

ちょっとさっきの話、少し話戻るんですけれども、さっき予算の話を見せてもらって、その予算、我々議会も認めたという話をしたんですけれども、その認めた議会の予算は9,800万にしても2億5,000万にしても、すぐに報道されて、市民の皆さん知ろうと思えばすぐに知ることができるわけですね。恐らく応札しようとしている業者さんは、当然これは予算ってことは知ってるわけなんですよね。そのように理解した、あるいは思った中で、応札額が、例えば1回目から5回目までの予算が9,800万円なのに1億1,800万円というような金額を出してくるとか、あるいは6回目から7回目にしても、2億5,000万円という予算の中で、もう報道もされて、たしかこれ、その前の議会でも出たので6回目の前にも報道されたと思うんですよね。なのに2億6,900万ですか、2回目の。下がったといっても100万円下がっただけなんですけど、どうもこの辺が分かっているのに業者側はこういう数字を出してくるということをどのように理解したらいいのかなというのが、私としては分からないんですけども、発注者側としてはどのように捉えていますでしょうか。これが分からないと、やはりこの入札というのはいつまでたっても成立しない案件だったんじゃないのかなと思うんですけども、どのように捉えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

塚田財政課長。〔財政課長 塚田修身君登壇〕

○財政課長（塚田修身君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、予算のほうは公表されておりますので、恐らくは応札業者様も金額のほうは把握されていたのかなというふうには感じております。

ただ、その金額を超える応札額を入れた、入れてきたその思いというのは、やはりそこは応札された業者のお考えに基づくものですので、私ども行政としましては、この金額で応札されたその理由というところまではもちろん確認はしておりませんし、そこら辺については、現段階ではお答えはできません。

ただ、議員おっしゃられたとおり、ここの今回、7回目でようやく決まったというふうなこういった事案が、今後もし起こるようなことがあれば、やはり行政サービスがこれだけ遅延をしていると。サービスの提供に遅れを来しているというところは懸念するところがございますので、ここはやはり工事完了を待つか待たないか、そこまで引っ張るかどうか今後の検討としましても、やはり振り返りをする中で、こういった事態、今ほど議員のほうからもご質問のあったような点も踏まえまして、私ども振り返りをした上で、やはり国や県なりの公共工事担当者とまた意見交換しながら、今回の私どもの対応が適切だったかどうか、また今後、どうすべきかどうかというところでご意見をいただく中で、公共工事、適切なものにしていききたいと、入札契約も含めまして適切なものにしていききたいと、そういうふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

何かどうしてもこういうふうな話になってくると、何か責めてるようなあれになってくるんですけども、単純に、市民のどなたから見ても、これはやはりこういったことというのは不思議でならないと思うわけで、やはりできれば、今回これでなくてもいいんですけども、納得のいくようにならなきゃいけないんじゃないかなと思うわけですが、単純にどう見たってこれ、成立するわけ、予算額より多い応札額も出してきてるわけですから、これで成立していくようでは、やはり入札も一体何ですかという話になっていくわけですし、それをしっかり受け止めていただきたいと思う思いで、ちょっとこの辺のところ強く言わせてもらっているところなんですよ。

もう一個、疑問に思うのは、2棟同時解体に6回目になって2億6,300万円、2億1,635万円。7回目については、同じあれなのに、随意契約になったわけなんですけども、基礎工事も残して、先ほどの市長答弁で500万短縮したという話になるわけなんですけれども、500万だと予算内に収まるかなとは思いますが、それはそれとして、安くなるはずなのに、逆に800万ほど、865万高くなっている、予定価格が。これはやはり理屈に合わないなというふうに思うわけですよ、ほんの数か月の間に。500万円安くなるような発注をしているのに、自分たちが出してる予定価格が2億1,635万じゃなくて、幾らだっけ865万高い2億2,500万円の予定価格を出していると。これはどういうことになるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

入札は、時期を変遷してずっときております。その間にも、人件費ですとか物事を、処理費ですとか、そういったものの価格については動いております。私どもその入札の都度その部分については確認をさせていただいて、単価を置き換えているということがございますので、その部分で数字の変更が出てくるといったところはございます。

さらに業者さんのほうも、参考見積りを出していただく上で、そういったところも加味した中、人件費とかそれぞれの業者さんの単価はあるかと思えますけども、処理費ですとかそういったところ全体も含めて、重機の部分の費用ですとかね、そういったところも含めて価格の変遷、今、物価上がり傾向でございますので、そういったところで価格の変更が出たものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

ちょっと、おっしゃる意味はよく分かりました。分かるんですけども、1回目から5回目までの予定価格の変動が、5回もやっけていて160万上がったただけなんですよね。今回、6回目、7回目が夏からこの数か月の間の中で、物価が上がったりいろんな数字が変動するという中で、工事を減らして、基礎工事を減らして、さらに、いるのに、それよりも下がるか同じぐらいだったらまだ理屈は分かるんですが、800万も上がっているということが、果たしてどうなのかなというふうに思うものですから、ちょっとその辺を理解できないでいるんですわ。恐らくこれ聞いても、大体似たような答弁になるのかなと。インフレ率だとか、あるいは参考見積りだとかというふうな話になるんじゃないのかなと思うんですけども、ちょっと市民の皆さんもかなりこの辺疑問に思ってる方多いので、もう一度じゃ、お願いできますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

私どもとしましては、その都度、参考見積り、それから単価のあるものについては単価の部分を見直しながら、先ほども答弁したとおり、一応予定価格を設定させていただいている。当然、性能発注方式ですので、その考え方については聞かせていただいた上でそういう形、適正と思われるというものを設定した中で入札に臨んでいるというところでございます。

予定価格については、一応そういう形、業者からも予定価格の考え方、設計は業者さんのほうでやられてますので、その考え方については確認をして、解体工事ですので、周辺の方々にご迷惑かけないような形というのを聞きながら、こういう形での入札という仕様書を作って、入札に臨んで

いるといったところが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中一君）

それでは、基礎部分の残したことについてなんですけれども、これによって工期も公費も大分短縮したということなんです、この基礎部分というものの算定ですね、500万円という算定は、じゃ、どこから来たのかなというのは一つ疑問なところもあるんですわ。先ほどの答弁では、旧宮田ビルのほうは、設計のあれがないということで参考見積りを取ったということなんです、地中部分の基礎のことに関しては、この辺に関する資料というものがなくて数字は出せないのか、それとも何か見込んで出すことができるのか。そういう基礎図面というようなものや何かはどのようにしたのかなと。どのようにじゃ、基礎の500万円というのを出したのかなというのが一つ疑問に残るんですけれども、それはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、宮田ビルのほうの基礎の状況というのは、図面がないので私どもも分からない状況ではあります。そういった中で500万というふうに出させていただいたのは、私どもの知り得る情報として持っているものの数字でしかお答えできようがありません。直接工事費で約500万ということに答弁をさせていただいたのは、東北電力ビルのほうの基礎の撤去の部分でございます。宮田ビルのほうについては、性能発注方式で、基礎があるかどうかという部分については分からない状況ですので、その部分については、私どもも情報として持ち得ていないといったこととなります。

今現在、執行中の案件ですので、正直、金額お答えできないというところもございますので、設計があった部分の直接工事費、東北電力ビルの基礎、そこについては図面もございまして、その撤去の直接工事費、あくまでも直接工事費です。直接工事費で約500万というふうにご答弁させていただいたということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中一君）

今工事のあれで、答えられないものはやっぱりそのようにおっしゃってください。私も分からないで聞いているところを、疑問に思うところをストレートに聞かせてもらってますので、すいませんけれども、そのようにお願いしたいと思います。

基礎部分で、普通に建物の床だとか壁だとか、あるいは電灯だとかトランスやいろいろな電気のものやなんかで、今すごくアスベスト、先ほどからも話も出ているアスベスト、それからPCB、

この処理というのは非常に重要になっているわけなんですけれども、この基礎部分についての今調査というのは、何かいまいちよくあれなんですけれども、アスベストの調査というのは大丈夫なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

もともと基礎自体は地中に埋まっていたものでございますので、そこに塗装するわけでもありませんし、基本的にはコンクリートと鉄筋という構造で出来上がっております。そこに、アスベストですとか有害物質はないものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

ないものと考えているんですけども、あつたらどうすんのかなと、残ってるわけですからね、ちょっと気になるところでありますが、それはそれとして、地中に残している基礎のことについて、広場でするから、さっき何とおっしゃったかな、影響はないとおっしゃったんでしたっけね。設計のほうの計画にしても、広場だから残すというような話をされたかと思うんですけれども。これは、環境面において、解体工事において、こういうものを残すというのは、環境の面で、環境処理の面で違反にはならないんでしょうか、大丈夫でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

基礎を残すことに関しましては、もともと地中にあったものでございますので、上の広場の部分に対して、環境的に影響の出るものというものは少ないかなと思っております。さらに、基礎を残すこと自体が、環境省の通達によって、残すことは可能だということになっておりますので、そのガイドラインに基づいた中で、私どもは、今回事情もありまして、基礎を残すことにしたというところでございます。上で、これから利用をする広場に対して基礎が支障になってくるようであれば、広場の整備の中で基礎を取るということにしておりますので、広場の、これからどういう広場になっていくかというのはこれから造り上げますけれども、その中において、支障になってくるようであれば撤去をするということになるかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

私も老婆心で、最近ビルやなんかを解体するに当たって、基礎を残すのは、環境省というか最

近のあれでは違法だという話も聞かんでもないものですから、これ話を、事業を進めていって、後からそうなるからでは事業に差し障りがあるなという老婆心で聞かせてもらったんですけども、このガイドラインに沿って許可を得ているのかな、よく分かりませんが、もしちゃんとそのような手続を踏んでおられるなら私も心配しませんが、ちょっと心配だったものですから、これ確認をさせてもらいました。

ということで、ちょっと今回このことについて長くあれなんですけども、やはり昨今の人口減少だとか、それからいろんな、これから不要になってくる建設物というのは出てくるんじゃないのかなと。それに当たって、解体する事業、あるいは工事というものも増えてくるんじゃないのかなということで、これやっぱり今回のようなことがないようにしていただきたいなというのが一番の、今回詳しくやらせてもらったとごさいます。少し微に入り細をうがつのところがあったかもしれませんけれども、その辺のところは勘弁していただく中で、今後ちゃんと事業のほうを進めていただくことを期待をしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

あと残りの時間ですけれども1個、あれは、まず、先日、先月ですか、近大のノドグロが完全養殖になったということでもあります。3番ですね。

一、二年前に高校と大学の連携ということで地元の海洋高校と連携協定を結んだりということで、このことは、すごくこの地域のプラスのことかなと思って私も喜んでそれを見てたんですけども、このことについて、市としてはどのように捉えて、あるいは何か進展とか今後の発展的な見通しとかという何か考えがあったら、教えていただきたいなと思って取り上げさせてもらいました。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

この2月になりまして、近畿大学のほうでアカムツの完全養殖に成功したという報道はされております。市といたしましても報道で知ったというような状況でございます。

海洋高校と近畿大学につきましては、平成30年にアカムツ等の養殖及び種苗生産に関する高大連携協定というのを結んでおりまして、海洋高校の施設は、新潟県内で海水魚の種苗生産を行える施設を持っているということで、近畿大学のほうといたしましては連携協定、高大連携協定を結んだものと考えております。

今回ノドグロの生産に成功したのは富山の試験場ということでやっております、研究機関でございますので、当然、研究のその成果というものについての取扱いというのは非常に慎重になっているかと思っております。ですので、私ども行政といたしましては、その研究成果というのは、この報道でしか知ることができませんでしたが、糸魚川の漁港でもノドグロの捕獲というのが盛んに行われておりますし、新潟県でも「美宝」という名前ブランド化しておりますので、今後、人工養殖された、そうしたアカムツが、糸魚川の漁業振興に寄与してくれることは非常に期待したいというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

すごく私もこれ、ニュースを見てうれしく思って、うれしく思うんですけども、じゃ、一体、地元のほうはどうなってるのかなど。これを受けて、今後何か明るいニュースか何か出てこないのかなどと思っているんですよね。ぜひ行政のほうも、何らかの連携ができるかどうかあれば、今何か模索しているものがあれば教えてもらいたいなと思って、今回上げさせてもらったんですけども、このノドグロというものを今後、市としては何か考えがあったら教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

ノドグロの完全養殖については、一番最初のときに、海洋高校の生徒たちが沖に出て、一本釣りをして、そこで受精卵として作って、実際には、その当時、受精卵で、いわゆる稚魚にまで成長したのも実際にございますけども、近畿大学のほうで今回リリースしたのは、近畿大学の発表ということで、世界初というような感じになりましたけども、当然、近畿大学と海洋高校は、連携協定をしておりますので、今後、今度は県内の食料農業大学とか、そういうものとの関連性を含めながら、やっぱり第一次産業、農業も含めたコラボレーションを図っていくという部分では、一つの大きなつながりができたんじゃないかと思っておりますので、市としても、今後、各種大学にこういう部分を、有用性をアピールして、ぜひいろんなところから参画できるようにしていただけるように努力をさせていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

よろしく申し上げます。

あと残り僅かで農業のほう、圃場整備、先ほど事業のあれを伺ったんですけども、県の予算の関係、割当てによって、今実施されている圃場整備の中で、予定よりも遅れているとかという、そういう事案はあるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

先ほど市長の回答のほうでお答えさせていただきましたが、糸魚川管内では7地区で現在実施中

でございます。確かに財政等につきましては、国、県、市とも厳しいような状況が続いておりますけれども、今のところ圃場整備につきましては、今の内閣では、内閣側の積極的に進めていくというような方向性もございますので、県、市といたしましても、国への要望を強めまして、確実な財源の確保には努めておるところで、今のところ大きく遅れているというような影響は出ていないというふうには感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

県のほうでは、一時、8年度からの受付を禁止してる、あるいは受け付けてないという話も聞いたんですけど、今現状はどうなんでしょうか。市内のほうでは、それに対してさらなる要望が出ているのでしょうか。その辺をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

県のほうから直接、県内の市町村にお話がありましたのが、新規の採択について少し見合せをしたいというようなお話がございました。今やっている事業につきましては、実際に動いている事業については、引き続き、継続的に予算確保して進めていくということだったんですけども、新規事業については、1年、2年待つてほしいということだったんですけども、県の出先の機関のお話を伺いますと、事業が当然終わってくる箇所も出てきますので、そこについて、終わった箇所については今計画したものを新たに入れてもらうよう、本庁とはきちっと話をしながら、遅れることのないように進めているということでございますが、やはり1年遅れるというような指示がございましたので、今後の動向については、きちっとこちらのほうといたしましても確認をしていきたいというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

担い手育成にしても、あるいは近年の渇水にしても、圃場整備は結構大きな役割を果たしますので、その辺しっかりニーズを酌んで進めていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

これで終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で、田中議員の一般質問が終了いたしました。